

1 主題名 みんなで成功させよう(C-15 学校生活, 集団生活の充実)

2 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値について

2学期は体育祭や文化祭など、クラスで協力をする行事が多くある。1学期では級友との仲も深まり、互いに協力する姿も多く見られた。しかし、クラスで話し合い、意見をまとめるとなると、意見が食い違い、争いが起こる場面も見られた。これは生徒一人一人に人格があり、それぞれ考えや立場が違うため仕方ないことともいえる。だが、社会生活を送る上で、意見が違う相手にも同意できる部分は同意し、そうでない場合は自分の意見をしっかりと伝え、集団の意見をまとめることは大切なソーシャルスキルである。生徒それぞれが学級の一員としての自覚をもち協力し合い、集団の中での自分の役割と責任を自覚して学校生活が充実するよう、本主題を設定した。

(2)生徒の実態(27名)

〈アンケート結果〉(24名 9月30日実施)

- 1 あなたは教室でゴミをゴミ箱に捨てました。そのときに上手くゴミ箱に入らなかったのですが、あなたはゴミを拾いますか？そのままにしますか？
拾う 24名 拾わない 0名
- 2 クラスメイトが教室でゴミをゴミ箱に捨てました。そのとき上手くゴミ箱に入らなかったのですが、あなたはそのゴミを拾いますか？そのままにしますか？相手に教えてあげますか？
拾う 12名 拾わない 0名 相手に教える 12名
- 3 学校(社会)で生活をしていると自分の意見を求められたり、考えを伝えなくてはならない場面があると思います。そのときに相手に自分の意見や考えを上手く伝えられると思いますか？
伝えられる 6名 伝えられない 18名

本学級の生徒は男女間の仲が良く、行事ごとには皆で協力する姿が見られる。ただ時折、友人への声掛けがきつい言葉になるなど、コミュニケーションスキルに課題もある。

アンケート結果を見ると、生徒それぞれが正しいと思う考えを持って行動していることが分かる(質問1)。ただし、その自分の考えを相手に伝えることに関しては、伝えない、上手く伝えられないと感じている生徒が多いようだ(質問2・3)。質問2で「相手に教える」を選ばなかった生徒の理由には優しさからのものが多かったが、中には「相手に伝えても嫌と言われたら嫌だから」と、相手に伝えることの恐怖感を感じている生徒もいた。質問3では「コミュニケーション能力がないから」や「相手とは考えていることが違うから」などといった、相手に意見を伝えることを諦めているような内容が目立った。

本主題を学ぶことで、相手と自分の考えが違っても、自分のコミュニケーションがただただしくても、自分の意見や考えを相手に伝えることの重要性を理解させたい。そのスキルを身に付けることによって、集団や個人が成長することが伝わり、今後の学級生活や社会生活に生かすよう指導したい。

(3)資料について 中学道徳1(光村図書)P.50-P.54「みんなで成功させよう」

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科道徳編2-2-3「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」では、「道徳科の学習を進めるに当たっては、その特質を踏まえて、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習に意を用いる必要がある。(中略)要は、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践につなげていくことができるようにその学習内容や方法を構想していくことが求められる」とある。

この資料は状況が分かりやすく場面設定されているため、自分ごととして考えを深めやすくなっている。特に文化祭を間近に控えているため、クラスの状況も考えやすい。集団の中で自分の役割を理解し、その責任を果たす方法について考えを深めさせたい。自分の考えや意見を相手に伝えることに臆病にならず、学校生活が充実するよう、基礎となるソーシャルスキルを持たせたい。

3 本時の指導

(1)ねらい

より良い集団として生活するために、集団の中での個人の役割を理解し、意見や考えを相手やクラス全体へ伝えることの大切さを理解したり、そのスキルを身に付けたりする。

(2)準備・資料

教員用パソコン 生徒用タブレット アンケート結果 教科書を拡大コピーしたもの

(3)展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点(○学び合い)
1 アンケートの結果を知る。 (1)アンケート設問1・2・3について解答が散らばったことについて自分なりの考えをまとめる。		・タブレット端末でのアンケート結果とワークシートの提示を行う。
2 モデルを提示し、どのような問題点があるか整理する。 場面 文化祭でのクラスの出し物で、リーダーの指示を聞いてクラスメイトが制作を進めている。 ・登場人物の問題点を考え、クラスメイトと交流を深める	・信悟さんは指示をするだけで話し合おうとしていないよね。 ・林さんたちは思っているだけだから、自分のことを伝えたらいいのにな。	・個人の考えから、グループワークに移すため、まず個人の考えをまとめさせる。 ○グループでの交流では友人の気付きを互いに認め合うよう。「なるほど」や「そうだね」の返答の話形を意識させる。
3 それぞれの登場人物に自分が置き換わったと考え、どのような行動や発言をするか、グループで話し合う。	・僕が信吾さんだったら、話をした後に皆に「出来ないことや不安なことはある？」って聞くかな ・私が杉山さんなら、出来ないときは出来ないってきちんと伝えるな。	○登場人物の問題点に対して、どのような言い方をすれば、解決できるか、グループで話し合う。その際、司会者をグループごとに決めることで、満遍なく意見を求めるよう声を掛ける。
4 今後の学校生活でリーダーとなった場合に気を付けたいこと、サポーターになった場合に気を付けたいことを考える。	・リーダーは話し合いをまとめる必要があるから、皆の意見を聞くことを忘れないようにする。 ・リーダーは皆を引っ張らなくてはいけないから、皆への声掛けや励ましをしたい。 ・サポーターはリーダーの話をよく聞いて協力する必要があると思う。	・個人のまとめとして「自分が集団のリーダーとサポーターになったら」を想定させて考えさせる。 (評)集団の中での自分の役割を考え、自分の意見を集団に伝えることの大切さや、伝える方法について、自分なりに考えを深められる。(観察・ワークシート)
5 教師の説話を聞く。		・集団での個人の役割の大切さが伝わるよう留意する。

4 事後指導

- 合唱コンクールの練習などで生徒がクラスをまとめる際に、自分の役割を考えるよう声掛けをする。